

ケロロ軍そうさん、ぼくは君のことが、とても気に入ります。なぜなら君は、とてもドジだったりするのに、なぜリーダーなのか、不思議だからです。ギロロの方が男らしいと思うし、ドロロの方が、かっこいいかもしれない。

なぜだろう。そうか！軍そうさんには、すごくいい所があるんだ。それは、やさしいハートと思わずわらっちゃうユーモアだ。そんな君を見ると、少し位ドジだって、み

んな君を助けたくなってしまうんだと思う。ぼくだってそうだ。いつも思わず、おうえんしながら見てしまう。

軍そうさん、ぼくの内しよの話をするよ。この間、ぼくは忘れ物をしてしまった。じょうぎだ。忘れ物表に、また一つ丸がついてしまった。ぼくは、家で、お父さんやお母さんそしてお兄さんには、知られないようにしよう。と、いっしょに思った。でも、軍そうさん君がもし、いてくれたら、なんだかすぐに、

素直に、話せそうな気がするんだ。だから、
 ぼくは、君が家にいてくれたらいいなと思う。
 毎日、学校のことや友達のことを色々話して、
 二人で大わらいしてしまいうだね。なんだ
 か、冬き君が、ちょっとうやましくなっ
 てきたよ。

もちろん、ぼくの家族だって、やさしいし、
 おもしろいよ。ぼくは、いつもかわいがって
 もらっているよ。でも、君が現われたら、も
 っともっと楽しくなるだろう。

それに、家族のみんなも、君のことが大好
 きだよ。お父さんなんて、「ケロロ軍そうし
 の、まん画本を大人買いしてしまったくらい
 だから。」

もしも、君が、本の中から現われたら、ぼ
 くは、君に、こう言うよ。

「ケロロ軍そうさん、ぼくも、君達の仲間
 してくれないかな。」

って、その時は、ドロロを仲間外れにしない
 ように、気を付けようね。